

シン ジー放談

ジジ-1: ヤマケイ
ジジ-2: タナカ

Shin Jiji Jiji

タナカ 3月はとても悲しく寂しいニュースがありました。

ヤマ そうだね。ボートレース界最年長レーサーだった高塚清一さんが亡くなった。

タナカ ずっと走っていたし、あまりにも突然のことで本当に驚いた。

ヤマ 3月1日に亡くなったとのことだけど、2月27日まで多摩川で走っていたからね。

タナカ まさに生涯現役という感じだった。

ヤマ そうだね。

タナカ 直接取材したことはあった？

ヤマ 一度だけ、話を聞いたことがあるよ。その時は以前はランナのレースがあつたから、そこまで無理な減量をせずに選手を続けることができたと思う、というような話を聞いた覚えがある。

タナカ 選手にしては体格が良かったからね、高塚さんは。

ヤマ そうそう。そしてランナの強豪選手の1人だった。

タナカ それはいつ頃聞いたの？

ヤマ 本誌を創刊して何年か経つてという頃じゃないかな。

タナカ もうランナのレースが行われなくなつてからだね。自分は13年に、結果的には高塚さんにとつて最後の優勝となつたレースの1か月半後くらいに当時連載していた「松本進の今日は飲みまい」で取材しているんだよね。

ヤマ ああ、松本さんとはそれこ

そランナと一緒にすることが多かっただろうね。弟子の重野哲もいたんだっけ？

タナカ いや、重野は日程が合わなくて加藤翔と2人で出てもらった。その時の話で印象に残っているのは優勝直前にノロウイルスにかかつてしまい、体重が減つたのが良かったんだ、なんて冗談めかして話してくれたこと。

ヤマ 高塚さんは24年の優秀選手表彰で特別賞を受賞されたよね。その時に式典は欠席したけれどビデオメッセージでその話をしていたらいいよ。牡蠣にあたつて体重が減つた、と。

タナカ へえ、そうだったんだ。あの優勝の後にも優出が続いてね。調べたら3節連続で優出と絶好調だった。

ヤマ ケガの功名を地でいくようなエピソードだね。

タナカ その後も優出は何度かあったよね。22年に浜名湖の優勝戦で4号艇峰竜太、5号艇高塚と並んだ時にはかなり話題になったし売れた。注目を集める選手だったのは間違いない。

ヤマ なんでも出場予定だった浜名湖「薄暮だヨ！ 名人集合マクル杯」では初日のドリーム戦のファン投票で服部幸男より票数を集めていたらしいからね。

タナカ それはすごい！

ヤマ その節は献花台が設置されたそうんだけど、ものすごい数の献花があつたらしいよ。月並み

な言い方になってしまふけれど、高塚さん本人は、本当にレースが好きだったんだろうね。

タナカ うん。あとね、ゴルフやお酒も好きだったと話していたよ。それこそ松本さんとはランナ戦の後にゴルフに行つてはプレーしながら飲んでいたそうだし、片山友多加さん、重野哲之、加藤翔と高塚さんの4人でゴルフに行つては飲むと、楽しそうに話してくれた。今頃、松本さんと一緒に飲んでいるのかもしれないね。

ヤマ そうだね。

タナカ 多くの選手がSNSで触れているのを見たけれど、選手からもリスpektされる存在だったよね。

ヤマ うんうん。そんな中で高橋二郎が突然、最年長になつてしまつたことに茫然自失となつたというようなコメントをしているのも読んだ。確かに高塚さんという存在は大きかつただろうね。

タナカ 高塚さんが77歳で亡くなり、高塚さんは今75歳。その次に年長となると富山弘幸が66歳だから、かなり年の差があるんだよね。

ヤマ そうなんだよ。高橋さんにしたら、高塚さんに注目が集まる分、マイペースでやつてこられたって面はあつたと思う。

タナカ そうだろうね。高橋さんには元気でいてもらいたいです。そして高塚さんに謹んで哀悼の意を表します。では次に前回に続いてオンラインカジノについても触

シン ジョーニ 放談

👉 今月のお題

- ・現役最年長・高塚清一さん死去
- ・オンラインカジノに孕む危険性
- ・ヤマケイ、マクルールを去る！

れていこう。

ヤマ うむ。警視庁から経験者が300万人以上、年間賭け金総額が1・2兆円という推計調査が公表された。あくまで推計だけど、とても大きく大きなお金が動いているということだよな。

タナカ うん。それだけに軽視するわけにもいかず、スポーツ選手や芸能人を事情聴取することによって、広く違法性を世間に認知させようとしているわけだ。

ヤマ プロ野球選手も8球団16人の利用が判明したとNPBが発表していた。

タナカ 1人だけ名前まで報道されていたよね。

ヤマ そうそう。その選手がトレイニングを再開したことがスポーツ紙の1面で扱われていたことにも驚いたよ。それほどのことかよ、と。

タナカ ただ、それで読者はもちろん、選手たちにもオンラインカジノはヤバいってことは伝わったんじゃないかな。

ヤマ 何よりも野球界は野球賭博が絡んだら壊滅的なダメージを負うことになるからね。これ以上広がることはないように、見せしめを作ってるのかもしれない。

タナカ そうかもね。ヤマケイはスポーツベッティングの経験はあるの？

ヤマ 見たことはある。記憶違いじゃなければエストニアかなんかで見た気がするし、メキシコのカ

ンクンというリゾート地でNBAとかを賭けの対象にしているのを見た。

タナカ ボートレースや競馬ならレース自体はそんなに長くないでしょ。でもスポーツの試合となると、少なくとも1時間はかかるわけだから待つてられないんじゃないかって気がするんだけど…。

ヤマ 試合途中でオッズを変動させながら賭けられるんだと思うよ。

タナカ ああ、なるほど。

ヤマ ギャンブル好きのオレたちでも想像できないような賭け方が用意されているものだよ(笑)。

タナカ まあ、ただ、これはあくまでオンラインではなくリアルなカジノに行つての話だよな。数年前にIRのカジノについて議論されている時、よくギャンブル依存症についてワーワー言う人もいたけれど、あの議論は正直ナンセンスだと思つていたのね。

ヤマ ほう。

タナカ というのはカジノが日本にできたとしても2・3か所くらいの話でしょう。そこに行く旅費があるのはある程度、経済的な余裕がある人だよ。まあそういう人の中にも依存症になる人はもちろんいるんだろうけれど、そんな人数で言つたらたいした数じゃないでしょ。そこを心配する必要なんてないって。

ヤマ なるほど。

タナカ でもこれがオンラインカ

ジノとなると違うよね。24時間どこでもできるってことになる、よっぽど自制心がないと危ないと思うよ。

ヤマ それこそ(大谷選手の通訳だった)水原一平みたいに引つ張れるお金が目の前にあつたら、押さえられなくなる人もいるだろうね。

タナカ 某都市銀行の元行員とかね。

ヤマ そうそう。

タナカ しかし水原一平は最初は6億円とか言っていたのが、賠償金28億円という判決でしょ。負け額は約63億円だったとかいう話だし…。絶対に返せないよね。

ヤマ 本を書いてドラマ化や映画化されて空前の大ヒットとかなればあり得るかもしれないけど…。

タナカ 出所後はどうなる予定なんだっけ？

ヤマ 日本に強制送還されるって話だよな。

タナカ となるとヒットしたとしてもそのお金が賠償金に充てられる補償はないな。というのはアメリカには「サムの息子法」というものがあるんだけど、これは犯罪者が自らの事件の暴露で得た収入は、被害者救済に充てなければならぬという法律なのね。でも日本にはそれが無い。神戸連続児童殺傷事件の元少年Aが出版した時にこのことが話題になっていたの思い出すよ。

ヤマ なるほど。関係ないけど、昔出版関係者の間では3億円事件の



犯人に本を書いてもらえば3億円以上稼がせる自信があるなんてよく言われていたな(苦笑)。

タナカ あの犯人は結局、一切表に出てこなかったもんね。少しでも自己顕示欲があつたら、出てきそうなものだけど、それこそ強靱な精神の持ち主だと思うよ。ギャンブルで全部溶かしたつてオチだったら笑うんだけど、そんなことはなさそう(笑)。

ヤマ ハハハ。

タナカ そして今月はもうひとつ寂しいニュースをお届けしないといけない。ヤマケイが今月をもってマクルールを引退する、と。

ヤマ マクルールだけで30数年やってきたわけだけれど…。

タナカ 今後はどうするの？

ヤマ まだ決めてない。6月から7月にかけて旅行するつてことは決めているけど。前回、身内の不幸もあつて世界1周旅行を完遂できなかったから…。

タナカ そのリベンジの旅をするわけだね。

ヤマ そうそう。それは明確に決まっているんだけど、8月以降何をするかは全然考えてない。

タナカ 仕事はするの？

ヤマ あんまりする気はないな。外国人なんかは65歳くらいになればみんなリタイアするでしょ。なんで日本人はそういうことができるのかなくて前から思ってた。**タナカ** 逆に日本だと老舗の店で70代くらいのベテラン給仕が働い

ていたりするでしょう。それを見て、高齢者が働ける環境が日本にあることにビックリする外国人も多いみたいよ。

ヤマ 働ける環境があると捉えるのか、働かなくても暮らせる環境があると捉えるのかつてことじゃないのかなあ。

タナカ うん、それは分かる。ただ、日本人が長寿である原因のひとつは、かように長い期間社会と関わりを持つことができるからつて面は否定できないと思うな。

ヤマ 確かにそれは否定できないと思う。でも望んで働いている人間がいるかどうかと聞かれると、どうなのかなあ、と。

タナカ ともかくヤマケイはしばらくくゆつくりするつもりということだね。

ヤマ 人生の黄昏時にこれまでとは違った楽しみを味わうことを考えてもいいかな、と。旅行が好きだし、世界にはまだ行つたことのない所だらけだから、しばらくは旅行がメインになるかな。

タナカ 楽しそうだね。最後にマクルールを創刊してからの30数年で一番思い出に残っていることを聞かせてよ。

ヤマ ボートレースの変遷をいろいろと見てこられたことかな。オレが競艇を始めた頃は、女子選手がまったく相手にされていなかったけれど、オレ自身は女子選手のレースを見るのが好きだったから本誌では最初からけっこう取り上

げてきた。それが今や、女子スポーツの華と言つてもいい存在になつてるのは感慨深いよ。

タナカ うんうん。

ヤマ そしてボートレースが、よくあの落ち込んだ状況から盛り返せたな、と。これは奇跡に近いと思う。これはオレには明確な理由が分からない。もちろん女子レースの存在というのも一因ではあると思うけれど。

タナカ 女子もそうだしコロナも大きかったかな。

ヤマ 他の公営競技もある程度売上は戻つたけれど、ボートほどではないからね。

タナカ 6艇つていうのが分かりやすさでちょうど良かったという面はあるだろうね。

ヤマ それはあるか。競輪も今では7車立てのレースが増えた。あれは明らかにボートレースを意識してのことだよな。

タナカ 昔は競輪の複雑さこそが魅力と言われていたわけだけど、シンプルの方が好まれる時代になつたということなんだろうね。

ヤマ ただ競馬や競輪にあつてボートレースにないことをひとつだけ挙げるなら国際化ということかな。これが実現されることを望みながら、今後はボート業界を見届けていきたいと思う。

タナカ うんうん。

ヤマ 最後にみなさま、これまでお世話になりました。